

(第4章) レスリング・柔道のジュニアチーム訪問団が来訪

【来訪した訪問団構成】

- ・オリンピック委員会（訪問団長）：1名
- ・レスリングチーム：7名（うち、コーチ3名、選手4名）
- ・柔道チーム：7名（うち、コーチ1名、選手6名）

※選手は15～17歳

【東京日程】2018年8月16日(木)～8月18日(土)

オリンピック委員会・レスリング・柔道のジュニアチームが成田空港に到着し、24日(金)までの滞在期間中、最初の3日間は東京都内に滞在。

レスリングチームは専修大学、柔道は早稲田大学柔道部の練習に参加し、汗を流した。専修大学のレスリング練習では、明治大・青山学院・法政大及び同世代の中学代表チームも参加しており、中には全日本王者や世界選手権入賞者も参加し、ともに汗を流す日本屈指の高レベルな環境の中、盛んに技術交流や人的交流が行われました。

早稲田大学の柔道練習でも、首都大学東京が参加し、全国レベルの選手もいたため、非常に有意義な練習になりました。



専修大学の練習に参加するレスリングチーム



早稲田大学の練習に参加する柔道チーム



【舞鶴日程】

2018年8月19日(日)－8月20日(月) 引揚記念館、市長表敬、練習会

19日夜、訪問団一行は舞鶴に到着し、市内ホテルに宿泊。20日午前中には、ウズベキスタンとの交流のきっかけとなった引揚記念館を訪問。日本人抑留に関する史料やウズベキスタン関係の展示品等を見学。訪問団のメンバーは、シベリアやウズベキスタンで過ごした戦後抑留者のエピソードに興味深く聞き入っていました。



引揚記念館見学の様子



午後には、市長表敬訪問にて多々見市長と面談。多々見市長は、「今回の訪問を契機として、市民レベルでの交流に広がることを期待している」、オリンピック委員会のオディロフ シロジディン団長は、「これから様々な交流を通じて関係を発展させていきたい」と述べました。

記念品交換では、訪問団から木製のお皿（細部まで手作りでドライフルーツ等を盛り付けるためのもの）が多々見市長に贈られました。



市長から歓迎の挨拶



記念品の交換

2018年8月21日(火)～8月22日(水) 練習会、市民交流会

21日の午前中には、舞鶴の竜宮浜海水浴場で海水浴を楽しみました。ウズベキスタンは、世界でただ2ヶ国しかない二重内陸国であり、海がない国のため、初めて海水浴をする選手もあり、非常に楽しんでいました。舞鶴の海はもちろん、山やその他の自然もウズベキスタンでは見られない珍しい景色で、興味深く写真を何枚も撮っていました。

午後には、文化公園体育館アリーナにレスリングマットと柔道畳を設営し、合同の練習会を実施しました。練習には市内競技者をはじめ、自衛隊や近隣市の高校などからも多くの選手が参加。レベルの高い練習にレスリング・柔道ともに満足した様子でした。練習では、舞鶴とウズベキスタンの選手同士が言葉は通じないながらもジェスチャーやコンタクトスポーツならではの積極的なコミュニケーションが盛んに行われ、技術交流・人的交流が実現しました。

こういった練習が23日午前、午後も合わせて計3回実施され、練習量・レベルともに満足いく内容に終わることができました。



21日の夜には、練習を終えた訪問団のメンバーを市民で歓迎するため、私立日星高校の食堂を会場に市民交流会を開催しました。地域住民の皆さんや柔道、レスリングの競技関係者とともに食事やミニゲームを楽しみました。



市民交流会での集合写真

2018年8月23日(木)－8月24日(金) 成田に移動、帰国

23日午前中に舞鶴を出発し、京都経由で成田へ移動。各競技のコーチに今回の滞在中に困ったことや課題と感じたことを確認したところ、「食事面は日本の味に慣れるまで多少時間はかかるものの、宿泊環境や練習環境などの全体的な受け入れ内容に関して何も問題はなかった。今回のような形で今後も交流を続けていきたい。」と感想を述べられました。